

高野山開創1200年法会

弘法大師正御影供

5月9日(土)午前9時半より
(旧暦3月21日)



轉法輪

自心に迷うが故に
六道の波鼓動し
心源を悟るが故に
一大の水澄静なり

弘法大師

平成二十七年四月二十一日発行
発行所 犬飼山 轉法輪寺
〒637-0072
奈良県五條市犬飼町一二四
電話 0747-2214403
FAX 0747-2514717
編集発行人 桑山聖淳
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

野山の草花が春の光をあびて
いつせいに咲きはじめました。
私たちもお大師さまの慈光に
ふれて心の花を咲かせたいもの
です。

法要 午前九時半より

内吉野結衆寺院総出仕

講演 午後一時より

和歌山県かつらぎ町天野

丹生都比売神社

宮司 丹生晃市氏

稚児行列

九時半より

もちまき

二時半より境内にて

昼食接待

シャトルバス運行

JR大和見_レ轉法輪寺

犬飼山轉法輪寺

くしみの世界は自分の心が作り出したもの。自心の本性をありのままに悟れば、自然と心安らかな境地に至ることができる。

高野山結縁行脚

大師の三鉢と

不滅の聖燈を迎えて



轉法輪寺住職 桑山慈紹

平成二十六年四月六日、北海道より出発した高野山結縁行脚は、最終の内吉野支所に平成二十七年三月十七日、河内支所より引き継ぎされました。当山では同三月二十日より二十一日の二日間、釋迦寺（兼務寺）と轉法輪寺に

お迎えし、厳粛盛大に奉修いたしました。これも一重に大師明神御加護のもと、総代様をはじめ檀信徒各位の皆さまの深き清らかな信心のあらわれと厚く御礼申し上げます。

当山に聖燈をお迎えした翌朝、護摩堂にて聖燈を分燈し、毎日の不動尊護

摩供を奉修致しました。平素はマッチかライターの火での護摩奉修です。しかしこの日は全く違った雰囲気に包まれました。分燈したローソクの火がいつもより一層輝きを増して、まるでこの世の淨土の如く、何とも云い難い莊嚴な輝きの道場となつたのです。清淨な輝きに満たされた道場のなか、聖燈の淨火で護摩の修法を致しました。ありがたく、誠にありがたく、自然に涙がこみ上げてまいりました。

朝の護摩を終えて、九時より烏ヶ森堂にて彼岸会奉修後、十時より釋迦寺にて犬飼町主体の檀信徒約三十名の方の参拝を頂き、高野山結縁行脚・大師の三鉢と不滅の聖燈を迎えて法会を執

り行いました。檀信徒の方々お一人お一人三鉢に親しく手を触れ、聖燈と本尊三鉢を礼拝して頂きました。住職の挨拶法話の後、参拝の方々には線香に分燈された聖燈を各自手にされて、ご自宅のお仏壇・神棚等に奥の院の聖燈を灯して頂きました。

翌三月二十一日、この日も早朝より護摩堂にて、不動尊護摩供を聖燈よりの分燈にて奉修致しました。昨日と同様、真に不思議な光明に包まれて、感涙に咽ぶ得がたい時でありました。

九時半より轉法輪寺大教堂にて、高野山結縁行脚・大師の三鉢と不滅の聖燈を迎え、住職導師のもと職衆七口、檀信徒約三百名を迎えて盛大に奉修致しました。高野山中門永代奉納の結縁芳名者は二百十七名を数え、結縁の方々の家門繁栄・子孫長久・各家先祖供養・諸願成就をご祈念申し上げました。

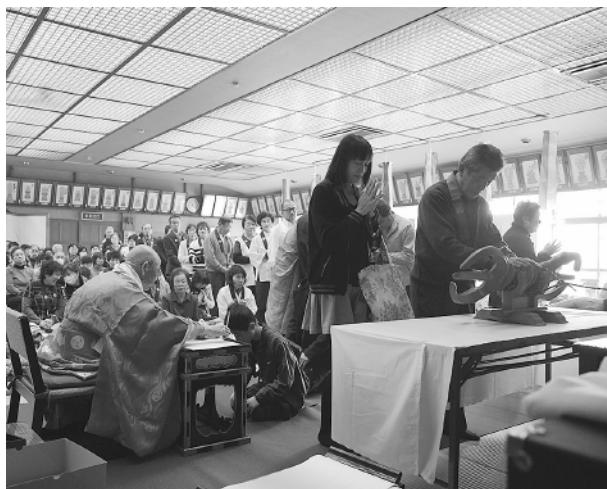
結縁行脚法会に引き続き、「高野山不滅の聖燈を迎える」五月九日には弘法大

正御影供法会もご聖燈の火で奉修させて頂きます。
お大師さまのお光の有難さを共に感じましょう。

轉法輪

(3)

結縁行脚法要
名譽住職の御加持を受け、三鉢・聖燈と
御縁を結んで頂く檀信徒の皆さま



師正御影供を執り行います。高野山開創千二百年記念であると同時に、大師明神御邂逅千二百年記念として、盛大に報恩法会を開きたいと考えております。皆さまお誘いあわせのうえ、多数のご参拝下さいますよう、ご案内申し上げます。

合掌

御膳帳のお願い

三月よりお世話人さまに正御影供の御膳帳を持って回って頂いています。

弘法大師御入定のおまつりである正御影供は、皆様に御喜捨いただいた淨財によつて修行させて頂いております。なにとぞご協力よろしくお願い申し上げます。



鈴遍路

皆さんは御詠歌を聞いたことがありますか。

最近は家やお寺でお葬式をすることが少なくなつたため、「御詠歌」も実用の場を離れ、大会用としてお唱えされることが多くなつてきました。

御詠歌で比較的初めにおけいこする

曲に「楊柳」という曲があります。「天
が下 照らさぬ隅もなかりけり 高野
の奥の法の灯」この詩は、明治天皇の
侍従として仕えた高崎正風という人が
作ったものです。正風は六十歳のとき、
湯治のために白浜から高野山にまわ
り、奥の院にお参りします。大師御廟
までの参道には、多くの敵味方に分か
れて戦つた者たちの墓が静かに並んで
いました。

日本人の精神的支柱をなしたと言わ
れる正風ですが、島津藩のお家騒動に
巻き込まれ、父親の処刑、自身も島流
しに合うなど、少年期は決して恵まれ
たものとは言えませんでした。その正風
が御廟に立ち、何を祈り、何を決意したの
か。まだまだ御詠歌への興味は尽きませ
ん。



◎御詠歌講 未経験でも大丈夫。少人数で基礎から指導しています。一緒にお寺の行事や、本山の大会に出てみませんか？

生かせいのち

【第四十五話】

名譽住職 桑山聖規



なぜ神の世界・仏の世界かといふと、天地の恵みにより私達は生かされています。私達は地の恵み・水の恵み・火の恵み・風の恵み。この四大と空の恵みにより生かされています。恵みですから無料無限に施されています。この施しが神であり、仏であります。有難い仏の世界です。

私はこの仏の世界で生かされています。自分が神仏の子ですから、周りの人も同じく神仏の子で兄弟姉妹です。自分が大事ですから、總ての人が等しく尊いのです。ここに心より自他を愛する心と、拌みあひ助け合いの心が生まれます。これに徹すれば争いは總て無くなり、極めて楽しい世界が出来ます。

◎ 大師の御誓願

私はこの仏の世界で生かされています。自分が神仏の子ですから、周りの人も同じく神仏の子で兄弟姉妹です。自分が大事ですから、總ての人が等しく尊いのです。ここに心より自他を愛する心と、拌みあひ助け合いの心が生まれます。これに徹すれば争いは總て無くなり、極めて楽しい世界が出来ます。

虚空尽き 衆生尽き 涅槃尽き
なば 我が願いも尽きなん
と祈誓されています。

◎ 現世の極楽浄土

私達の生活している国土は神々や仏の世界であります。この有難さを感じる人は少なく、当たり前に思う人が多いのではないか。

この心をまず家庭から満たし、近くから遠くに及ぼして行けば理想の極楽浄土が出来ることは間違ひありません。これを曇らすものは何でしょうか。それは自我心の間違いで個人の欲望で

わかり易く言いいますと、この大宇宙が無くなり總ての生き物が無くなれば、悩み苦しむ者も無くなる。そうなければ私は安心して、救済の誓願も必要

轉法輪

が無くなる。しかしこれから五十六億七千万年もこの世は続くであろう。それまで誓願を持ち続けて皆を救済せねばならぬ、ということです。

◎私達の毎日の修行

迷い苦しむ私達の為に御入定して昼夜の修行を続けて下さっている弘法大師に心より感謝して、大師の御誓願のお慈悲を心に入れて自他ともに救われますように願い祈りましょう。

今年は高野山開創千二百年の記念すべき年であります。信者の皆様には一層深き信仰心を持つて、この世を極めて楽しい国土にする為に精励して下さい。毎日光明真言を百返念じれば、一年に三万六千五百返念じられます。般若心経を十巻拝めば、三千六百五十巻になります。目標を立てて、先祖の菩提と自他一同の幸せをお祈り下さい。

五月九日は大師御入定の聖日であり、高野山も当山も盛大に大法会を行いたします。万障繰り合わせて御参詣ください。お待ちしています。

大きいなる

御手の中

(後編)

高野山高校女子寄宿舎舍監

須藤脩鵬

思えば尼僧になつたことでご縁をいただき、桑山聖規名譽住職と出会うことが出来ました。これまで実にさまざまに教えをいただきお導きを賜りました。先生はいつもにこにこと慈愛に溢れ、ちつとも偉ぶるところがあります。神仏にも靈にも人にも『至誠』を貫くお姿に頭が下がるばかりです。長きにわたる修行から生まれた搖るぎない祈りを、まさに日々実践しておられる方に触れ、感動しております。

靈障の場合も除靈にとどまらず、迷つている靈もまた佛の子として救済するというお大師様と同じ御誓願に生きておられます。これ程の貴いお方がおられるのかと、お会いするたびに私は魂が洗われる思いです。また何度か拝

見した轉法輪寺様の法要や護摩の徹底振りにも圧倒されるばかりです。

この地上に生まれし後もその前も、ずっと大きいなる御手の中にありながら、実際のところ、眼に見えない世界の素晴らしさと畏れを私はなにも解つていませんでした。こうして振り返つてみましても身の回りで次々と頂く奇跡に、目に見えぬ世界が確かにあること、祈りは物質以上に確かなものであること、恐怖の念がますます深まつております。そして先祖供養の大切さをひしひしと感じております。

ご因縁の表れに振り回され、迷つぱかりの私ですが、気がつけば大きい深い思し召しに守られて導かれる今日でした。全てのご縁をお差し向けてくださるお大師様のご守護に感謝あるのみです。本当にありがとうございました。

合掌



◎お経を習う会 佛教の基本的な教えと、「自分の心」への気づきを中心とした授業を行っています。
毎月第2金曜日 夜7時～9時頃

心に宝を—15—

「半生を振り返つて」

平成二十七年 春彼岸

橋本市
宝形山 地蔵寺
井上 覚 善

私は、昭和四十四年十二月八日生れで、満四十五歳（数え歳四十七歳）であります。これから先、長生き出来たとしても、九十歳程度だと思いますと、もう人生の半分を生きてきたことになります。

そして今、半生を振り返り、思う事は「あつという間だつた。」ということです。子供時代は一日一日がとても長く、何をするにも初めてだらけで緊張し不安に思いましたが、成長して大人になつてみれば、子供の時に不安に感じた事も大変に感じたことも、「大した事じやなかつたな。」と思います。そしてそれは働くようになつてからも同じで、いろんな職を経験し、学生時代の

新聞配達や測量設計事務所のアルバイトから始まり、トラックの運転手、宿坊での住み込みの役員、市役所建設課の臨時職員、旅館の送迎バスの運転手等、そしてまた、轉法輪寺さまなどの有難いご縁を頂いたお寺さまのお手伝いなど、最初はどうしたら良いか、わからなくて不安に思つていた事も、覚悟を決めて郷に入り、一生懸命にやれば自然になんとなくわかつてきた様に思います。また自ら望んでさせて頂いた、厄年の三年間の流行なども、実際やつていた頃は大変だと感じた事もあります。けれども、今は大変だと感じた事もあります。

私の四十五年間には思いだせば、いろんな間違いや周囲に迷惑・心配をかけた事も、赤面したくなるような失敗などもあります。でも、それもひつくる全部が私の半生であり、私の宝であります。

これから先、残りどれくらいの寿命があるのか、どんな事が起こるのか、どんな経験をするのかはわかりませんが、いつかこの世を去るときに、「いろいろあつたが、精一杯やって、もう思

い残すことは無い。楽しかった。有難う。」と心の底から思えるような人生を送りたいと思つています。

私たちの人生とは、たとえ百年生きたとしても、振り返ればきっと一瞬だと思います。私たちのこの限りある命には親先祖のいのちが詰まつております。さらに仏さまのいのちも預かっています。決して自分独りだけの命ではありません。済んだ過去に囚われ驕ることなく、卑屈になることなく、また、まだ来ぬ未来を樂觀することなく、絶望し悲観することなく、「今」を見つめ、今を一生懸命に生きれば、成功しようと失敗しようとも、たとえ病気であつても寝たきりであつてでも、精一杯生きたならば、その積み重ねが、一生を振り返つた時に良き人生と思えるのではないでしょうか。

合掌



四国八十八カ所 歩き遍路の ちよつといい話

松山市
山本益男

歩いているときは
いろんな事に出会うのよ···
その 15

さて翌日、七時に他の宿泊者四人とともに雨の中、出発。他の三人は鶴林寺を目指しますが、私は慈眼寺へと向かいます。途中のコンビニで食料を揃え、雨の中ひたすら歩きます。慈眼寺までは十キロほど。それでも雨の中、慈眼寺到着は十時。ここには穴禪定修行が目的で来ました。穴禪定（あなぜんじょう）の修行とは、お大師様が御修行されたという鍾乳洞をローソクの明かりだけでとても狭い穴を通り抜けしていく修行です。太っている人、体が大きい人は寺務所前にある二本柱を通過できるかで確認します。通れない人

納経所でまず説明を聞きます。白装束の腰ひもも体の前で縛るのではなくて体の横できつく縛つて下さいとの事。前側に腰ひもの結び目があるとそ

は当然、現場の穴禪定も通れません。私はかろうじてバスできました。結構広いと思いましたが、意外と余裕がなかつたのにはびっくり。修行より痩せたほうが先かも。この確認用の二本の柱「行場の路幅 体験の柱石」の幅は何と三十センチありません。二十八セントです！ 穴禪定は奥行き百mの洞窟の往復で普通約一時間半前後掛かるとの説明書きがありました。料金はお一人様三千円、高っ！ どうしようと思つてゐるところへ一人の清楚なご婦人が声を掛けけてきました。何でもご主人はドイツ人。東京から来たとのこと。ご主人が穴禪定をやつてみたいと言つてゐるが、でも二人だけではちよつと気が重い、退ける。この雨であまり人はこなさそう。そこで私を加えたと三人で一緒にどうでしようかとのこと。私も千円で穴禪定が出来るので願つたり適つたりです。ご同行させて頂く事にしました。

それがつつかえて通れなくなる事がある。そので···それとできるだけ薄一枚に白装束を羽織ました。納経所から十五分ほど歩いて本堂、そして行場へ。まず、出発の時からして先達（洞窟案内人）さんから、あんたはちよつと太いから先頭になりなさいと言われてしまひました。先達さん付きということから必ず先達さんが同行します。入り口からして幅三十センチ。洞窟の中は寒くありませんが、しかし一体どうんだけ狭い洞窟なのでしょうか？ メタボ予備軍の私···とつても心配です。真つ暗な洞窟中へ白装束で一人ずつローソクを灯して進んで行きます。憎いほど行場の雰囲気がローソクでより一層演出されています。ここからは、暗くて全然写真どころではなかつたため穴禪定の様子を文章にて実況させて頂きます。

まず、身体を横にしてカニの横バイ状態で奥へ進み、そこからしゃがんだ状態でまず左の手を入れ、次は左肩

◎タイコの会 お経を唱える時に合わせられるタイコを練習しています。28日の護摩供にも出番があります。

から入り、そして体を反らして隙間に入り、今度はエビのように横向きになります。ながら、横ばいで少し進み、そこから這いつくばつて体をひねり、足を抜き、擦り抜けて行く（抜け出せない）、よつこらしょと体をひねり、回転させながらひーこらと突破します（なんのこつちや）。尖った岩がメタボなお腹に食い込みます。左手にはろうそくの火を消さないように持つたままなので身体の動きも意外と制限されて結構つらい姿勢になることもしばしば。フウフウーっと荒い吐息、鼻息でローソクが消えそうになつたり、姿勢次第では、自分の持つているローソクで髪の毛や白衣を焦がしてしまいそうになります。またほふく前進するような所もあり、狭い隙間を通るためにがいたり（のたうち回っていると言つたほうが良いのかも）していると普通に汗もかきますが、冷や汗もタップリかきます。しばらくして途中の広い場所でちょっと休憩ですが、後続の人（ドイツ人のご主人）がなかなか来ないようなので先達さんは引き返して行かれました。そしてなにやら奥から先達さん

の声。洞窟ですから、よく声が響きます。「そこは、まず右手から前に出す」、「そうじやない」、「それは左手…」、「痛たたた…」、そしてうめき声…。先達さんはドイツ人ご主人に向かつて日本語でまるで怒つていて指示しています。奥さんと聞いていて、申し訳ありませんが思わず二人で笑つてしましました。ようやく我々の待機する場所へ追いついてきた時は、白人なのになぜか青ざめて？見えた（笑）。

奥の祭壇の手前にはちょっと広い空間があり、天井が十五メートル以上ある。自分持つているローソクで髪の毛や白衣を焦がしてしまった所でも、冷静になつて少し戻り、体を上下左右に色々動かしてやつてみると何とか通過できるものです。こうしてアクロバット体勢を繰り返し何とか出口まで帰還。その間二時間。最後に本堂の周りを、お経を唱えながら三回廻つて御修行は終わりです。ドイツ人のご主人は汗だくで照れくさそうに、「ありがとうございました」と先達さんにお礼し、それでも結構すがしい顔をして二人で階段を下りて行かれました。この穴禪定は、ちょっとした恐怖と達成感と非日常が味わえます。メタボでない方は是非ご体験をお勧めします。次号は、鶴林寺からのお参りです。それではごきげんよう。

す。来る時もそうでしたが万歳しながらの横歩きでは途中の狭い岩場では胸がつかれます。お腹は引っ込められても胸はそうはいきません。そこは万歳しながらの力二の横ばい状態から、ひざを曲げて下側に沈みこむことで何か通過できることも分かつてきました。行きで若干経験しているので岩場につつかえて完全に動けなくなるような所でも、冷静になつて少し戻り、体を上下左右に色々動かしてやつてみると何とか通過できるものです。こうしてアクロバット体勢を繰り返し何とか出口まで帰還。その間二時間。最後に本堂の周りを、お経を唱えながら三回廻つて御修行は終わりです。ドイツ人のご主人は汗だくで照れくさそうに、「ありがとうございました」と先達さんにお礼し、それでも結構すがしい顔をして二人で階段を下りて行かれました。この穴禪定は、ちょっとした恐怖と達成感と非日常が味わえます。メタボでない方は是非ご体験をお勧めします。次号は、鶴林寺からのお参りです。それではごきげんよう。

(9)

轉 法 輪

行事報告



1月3日 初詣奉納演舞「鼓舞～KOBU～」

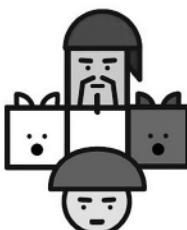


1月21日 大般若法会



3月5日 稲荷祭「春風コンサート」

稻荷祭
お稲荷様は、一般に歌や踊りなどの芸事を好むと言われます。それを表すお話をとして日本書紀に、スサノオの乱暴ぶりに業を煮やした天照大神を、アメノウズメが歌と踊りで呼び出したという伝説があります。(当山のお稲荷様は「末廣大神」と「白髭大神」で、末廣大神はアメノウズメの別体であるといわれています)。今年の稲荷祭を佳麗に盛り上げてくれたのが、若い女性三人のユニットによるコンサートです。透き通るような歌声に合わせて、華やかな彩りをつけるバイオリン、感情豊かに寄り添うピアノ。音楽に詳しくない私も思わず聞きほれてしまう、心に春の風が吹くような時間でした。お稲荷様もきっと、喜んで頂けたのではないか!



犬飼山
転法輪寺

<http://inukai.info>

最新の行事案内・行事報告は
こちらでチェック！

轉法輪寺公式ホームページ
<<http://www.inukai.info>>
フェイスブックページもあります。



高野山開創・大師明神御邂逅 1200 年記念グッズ

朱印帳の限定スタンプや各種記念品など、今年だけの品を作成しています。

参加者募集!! 淡路七福神巡りバスツアー 6月19日(金) 日帰り旅行
定員30名 (予価) 14,000円

轉法輪

(10)

来る5月9日(土)

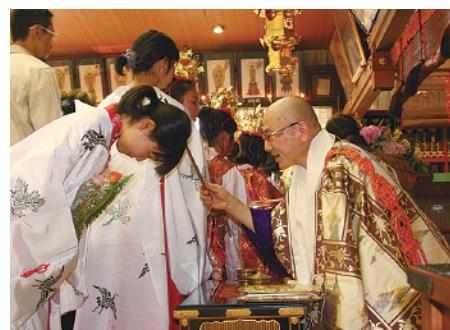
◆もちまき

2時半ごろ



◆法要 午前9時半より

稚児行列・御加持



正御影供

講演

午後一時より
丹生都比売神社の宮司様をお招きして、お大師様と丹生狩場両明神についてのお話を伺います。お大師様は、この神社の社地の一部を授かり高野山を開創されました。

和歌山県かつらぎ町天野
丹生都比売神社



宮司 丹生晃市氏

〈プロフィール〉

國學院大學神道学科卒業。宮司を務める傍ら、日本人の祈りの源泉、特に自然観と神仏共存の姿を伝える講演活動などを行っている。

シャトルバスのご案内

今回、JR大和二見駅と轉法輪寺間の小型バスを運行します。どうぞご利用下さい。

シャトルバス時刻表

JR大和二見発	7:40
	8:30
	9:20
	9:40
	10:20
轉法輪寺発	15:00
	15:30
	16:00



〈お知らせ〉

五月二十一日(木)の大師会はありません。
平常通り個人祈祷・水子供養の受付をいたします。

五月九日(土) 当日 (八時から)
五月八日(金) 餅つき・旗立
五月十日(日) 後片付け

掃除など

お世話人様は、ハッピ・袈裟
腕念珠をご着衣下さい。

正御影供の諸準備のため、お手伝いをよろしくお願い申し上げます。

◆五條児童合唱団と大正琴「たんばば」によるミニコンサート 12時半より